

熊本県立八代高等学校 平成28年度学校評価表

1 学校教育目標
「平成28年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を基盤とし本校の綱領を教育理念の根幹に置き、校長を中心とした指導体制のもと、文武両道の気風を尊重し、中高一貫校として6年間を見通した本校ならではの教育を実践し、学校活性化を目指す。また全職員が一致団結し、家庭、同窓会、地域社会との密接な連帯を図り、基本的な生活習慣の確立を基礎・基本に据え、社会に貢献できる人材の育成を目指す。

2 本年度の重点目標
ア グローバルな視野を切り拓く教育の実践 イ 組織力の活性化と教育力の向上 ウ 学力の向上と進路指導の充実 エ 豊かな心の育成と安全確保

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	中高一貫教育の推進	◇中高一貫ランドデザイン再設計	○より質の高い中高一貫校としての教育課程を編成する。 ○各教科が6年間に渡る教科指導の流れを示したランドデザインを作成する。	・本校中学出身者に対する高校での教育カリキュラムを検証し、教育課程の見直しを行う。 ・学習指導委員会等を利用し各教科のランドデザインの検討を重ねる。	B	◎効果的な学級編成が定着した。 ◎数学・理科の授業進度について今後検討することの確認がとれた。 △教科指導ランドデザイン作成が遅れている。
	グローバル人材育成	◇グローバルマインド並びにグローバルスキルの向上	○実践的英語発信能力の育成を図ると同時に、各種自己研鑽活動・社会貢献活動に自発的に参加する態度を育成する。 ○各種ビジネスコンテスト等の入賞者数20名以上社会貢献・自己研鑽活動等への参加者延べ1000名以上を目指す。	・即興型英語ディベート、イングリッシュキャンプの実施、英検受検を推奨する。 ・各種講演会等(知の触発プログラム)を実施する。 ・グローバル通信(週刊)を発行し自己研鑽活動等への参加奨励を行う。活動の様子についてはHP等で常に公開する。	A	◎昨年度からのグローバル人材育成プログラムが定着した。 ◎自己研鑽活動への参加意欲が高まり、参加者も1000名を超えた。 ◎グローバルアクション通信が定着した。 ◎HP公開の頻度が増加した。 △活動状況を更に外部へ発信することが必要。
学力向上	教師の指導力向上	◇アクティブラーニング等の導入による科学的な学習指導理論に基づく授業改善	○生徒による授業評価において各教科のアクティブ・ラーニング実践についての肯定的評価が70%を超える。	・科学的学習方法の紹介や組織的導入を行う。 ・授業力向上のため、各種研修会への積極的参加やスーパーティーチャーの指導を仰ぐ機会を提供する。	B	◎生徒の学校評価では、73.2%が肯定的な意見であった。 △「思考力・判断力・表現力」の向上に結びつために生徒の実態に合わせた指導方法、実施の頻度等の研究が必要。
	生徒の自発的な学習の促進	◇予習→授業→復習のサイクルの確立及び教科等の学習の統合、転用、活用の促進	○自ら進んで世の中の課題を発見し、その解決を図るために必要な深い教養と豊かな知性を育む。 ○学年ごとの目標学習時間を設定し、80%以上の生徒が目標を達成している。	・シラバスの活用や定期的な課題の配付による学習のペースづくりを指導する。 ・年3回、期末考査前に在宅学習時間調査を実施して家庭学習、読書等の指導に活用する。	C	◎帰宅後の時間を有効に利用できる生徒が増加している。 △「目標とする家庭学習時間を確保できている」生徒は、50.2%であった。 △学習の習慣化が進まない生徒への次の手立てが必要である。
キャリア教育(進)	新しい大学入試に対応できる学力を身につけさせる指導	◇6年間を見通す進路指導ランドデザインの設計	○新テスト導入に備え、求められる学力の3要素を育成する6年間の指導方針を再設計する。 ○進路指導部、学年、各教科が連携し、生徒が高い目標を維持する態勢をつくる。	・自己研鑽や社会貢献活動を通して自己の進路を考えさせるための情報提供。 ・全職員が最新の入試動向を理解し、大学入試問題の解答力を身につけ、指導に役立てる。	B	◎生徒の志望校選択の助けとなる講演会等を実施することができた。 ◎職員の教科指導力向上のため入試問題研究や実力考査作問など研究機会を提供することができた。 △中学を含めた6年間の進路指導ランドデザインの再構築を急ぐ必要がある。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
路指導	生徒の進路観、職業観の育成と志望大学選択の指導	◇個人の活動体験データのポートフォリオ形式での蓄積	○生徒の進みたい方向性から志望大学を決定させ、将来の学びの設計まで考えさせる。そのために在学中に社会と関わり、内包する様々な問題に気づかせる。	・ポートフォリオ形式によるデータ管理の指導と、各種の体験活動や講演会などを他の部署と協力して実施する。	B	◎講演会やワークショップは生徒の参加も多く充実した。 ◎ポートフォリオ形式の指導で自分自身がどのように成長したのかを実感させる取組も実践できた。 △記録としてファイルに残す際の形式や方法などの検討が必要。
生徒指導	自由と規律に基づく自律的な行動	◇自ら適切に判断し、行動しようとする態度の育成	○自己教育力を身につけ、常に5分前行動、挨拶の励行、服装・頭髪の整美ができる生徒の育成し、3学期までに整容指導対象者ゼロとする。	・全職員共通理解のもと、不公平感のない指導を行う。 ・生徒が自ら考え行動する機会を提供する。 ・朝の登校指導を利用し、服装の整美、時間厳守、挨拶を指導していく。	B	◎年間を通して全職員共通した基準で整容指導を行うことができ、基本的な生活習慣が定着した。 △朝課外の遅刻者（昇降口通過）が3学期目立った。
生徒指導	生徒の危機管理能力の向上	◇交通事故の防止 ◇情報モラル向上によるインターネット関連の問題事案の予防	○交通ルール・マナーを遵守し、危険予測能力を身につけ、下半期には交通事故をゼロとする。 ○情報モラルを身につけている生徒を育成し、携帯電話・スマートフォンに関わる問題事案をなくす。	・下校指導により交通マナーを指導していく。また危険箇所については視覚的資料を掲示し、事故を防止する。 ・情報教育講演会を実施するとともに、定期的に情報モラル啓発資料を発行する。	C	◎生徒指導部・PTA合同登校指導を、また時期に応じた下校指導も実施し、下校時刻の遵守、危険箇所での交通マナーを改善できた。 △交通事故は昨年とほぼ同じ件数であった。 △携帯電話の使用規則違反者が増加した。
人権教育の推進	人権問題の正しい認識と差別をなくす実践力の育成	◇地域の実状を踏まえた人権意識の向上 ◇実践力を高めるための中高一貫6年間を見とおした各学年の目標設定と取組	○部落差別をはじめ、あらゆる差別の解消に取り組む生徒を育成する。 ○職員一人一人が人権問題に関する基本的認識を確立し、人権教育を推進するために、外部各研修会に1人1回以上参加する。	・年2回、各学年単位で人権部落問題学習を実施する。 ・年1回、校内人権集会を実施する。 ・地域主催の人権集会をはじめ、各種研修会への参加を促す。	A	◎校内人権部落問題学習で部落問題、女性解放運動、水俣病問題を取り上げた。 ◎関係団体との連携を進めることができた。 ◎職員がフィールドワークを行い、部落問題の認識を深めた。
人権教育の推進	生徒が的確な教育上の特別支援を受けられる体制の整備	◇障がいの有無や個々の違いを認識してお互いを支えあい、すべての生徒が生き生きとした学校生活を送るための取組	○授業時や学校生活の中でのきめ細やかな観察を通じた情報収集をもとに、生徒理解研修を年2回実施する。 ○個別の支援計画を立てるとともに、予防的積極的な支援にも取り組む。	・支援を要する生徒の実態把握と共通理解に努める。 ・人権教育部会や特別支援教育委員会を通して個別の支援計画をたて、支援する。	A	◎特別支援教育委員会を通して、個に応じた支援体制の充実を図った。 ◎生徒理解の職員研修を2回開催し、生徒一人一人の状況把握に取り組んだ。
人権教育の推進	命を大切にする心を育む指導	◇自他の生命を尊び、大切にしていこうとする態度の養成 ◇自らの在り方生き方を学び、夢や目標の実現に向けて努力する態度の育成	○すべての教員が学習活動を通し「命を大切にする心」を育む指導を行う。 ○社会貢献活動や自己研鑽活動とおし、生命や自然に対する畏敬の念を高める。	・教科指導において関連する学習内容を確認し、年間を通した指導を行う。 ・ボランティア活動や自己研鑽活動への積極的な参加を促す。	B	◎各教科領域等で人権問題を取り上げ、命を大切にする心を育てる指導を行った。
いじめの防止等	いじめの予防と発生した際の早期発見、重大事案への対応	◇いじめを未然に防ぐための予防的取組 ◇早期発見早期対応 ◇重大事件が発生した際の適切な対応	○日常の授業や面談を通して生徒の状況を把握する。 ○定期的なアンケート調査により早期発見を行う。 ○人権教育部、生徒指導部との連携。 ○スクールカウンセラーや関係機関との連携をすすめる。	・毎月11日に「人権を確かめあう日」を設定し、いじめ予防の啓発を行う。 ・学期に1回いじめ予防対策委員会を開き実態把握と早期発見・対応など組織的取組の充実をさせる。 ・重大事件が発生時の応等についての職員研修の実施。	B	◎いじめ防止対策委員会を通して、生徒のおかれた状況をきめ細かく把握し、いじめの早期発見・事前防止と対策を行った。 ◎教育相談についての職員研修を年2回実施し、すべての生徒の情報を共有し、支援体制を構築した。 ◎心のアンケートを年8回実施して実態把握に努めた。

4 学校関係者評価

- ◎生徒は先生の指導のもとしっかりと学習しているが精神面の指導も必要。PTAも情報を共有して学習環境の整備を行う。
- ◎日々の積み重ねを感じた。グローバル人材育成は中高の柱と感じた。将来の職業観を根底に進路指導を行ってほしい。
- ◎校長のリーダーシップのもと、縦横の連携がとられた教育活動が展開されている。
- ◎教師集団が一体となり理念の実現に向かい良い状態である。保護者の評価が高いことは良いことであるが、今後生徒の学習意欲の喚起が必要である。
- ◎中高一貫教育校としての方策が良い。生徒の家庭状況に応じた進路指導とともに、生徒が完全燃焼をするような学校生活を送るような指導をしてほしい。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					

5 総合評価						
<p>○グローバル人材育成に関する各種取り組みは定着しつつあり、今後の更なる発展が期待される。</p> <p>○アクティブラーニングをはじめとした、指導方法の改善については概ね取り組まれている。</p> <p>○ポートフォリオを利用した指導は効果的であった。今後はそのデジタル化を目指し、より活用しやすいものをする。</p> <p>○生徒指導は概ね計画的に進められたが、交通事故の件数が減少しなかったため、指導を継続していく必要がある。</p> <p>○人権教育を計画的に進めることができた。今後生徒一人一人のより詳細な状況把握に努めていく。</p> <p>○いじめ防止対策については発見時の組織的な早期対応を念頭に、更なる整備を進めるとともに、いじめの予防的指導にも努めていく。</p>						

6 次年度への課題・改善方策						
<p>△再構築した中高一貫教育グランドデザインを早期に示す必要がある。</p> <p>△生徒が目標とする家庭学習時間を確保できるような指導を重ねていく。</p> <p>△交通ルール・マナー、情報モラルについては、日常的指導を継続していく。</p> <p>△学校全体を通した行事の見直しと精選を行わなければならない。</p>						